

## 株式会社タルミ

〈明治29年創業の老舗 伝統文化を守り、育んでいく、ものづくり〉



1 西鉄蒲池駅近くの県道沿いにある展示場。300点以上の商品が展示されている 2 本社工屋3階にある作業場。分業で行われており、7月は盆提灯製造の最盛期 3 平成26年に5代目社長として就任した佐野公紀さん 4 注文に応じ、一つ一つの提灯に、筆で家紋や文字を集中して描く

今回紹介する企業は、ひな人形や鯉のぼりなどの節句物や盆提灯の製造販売を行う、株式会社タルミです。

明治29年、樽見久太郎氏が盆提灯や花ごぎの製造を行う樽見商店を創業。戦後になって鯉のぼりの製造も始め、事業を拡大します。昭和45年に西鉄蒲池駅前に展示場をオープン。高度経済成長期には、24時間体制で工場をフル回転しながら商品の製造をしていた時期もあったそうです。

### 【企業情報】

- 本社所在地  
= 蒲生 970-6  
☎ 72・5281
- 資本金  
= 3300万円
- 代表取締役社長  
= 佐野公紀
- 従業員 = 40人



現在は、羽子板やひな人形、鯉のぼりなどの節句物や盆提灯など、幅広い商品の製造卸メーカーとして成長しています。

特に鯉のぼりについては、染め型を使って1色ずつ手作業で染色する「捺染」と呼ばれるプリントや裁断、縫製まで全て自社で行う九州唯一の企業で、「日本号」のブランドで売り出しています。昭和58年、依頼を受けて作った全長76mの鯉のぼりは、ジャンボジェット機よりも大きいと話題になったこともありました。

また、盆提灯についても、提灯のひご巻きから絹や紙の貼り付け、家紋や文字入れなど全て自社で行っています。製造される提灯は日本の伝統的工芸品に指定されている八女提灯で、丁寧に手作りされた商品は全国でも高い評価を得ています。

4年前に社長に就任した佐野公紀さん(54歳)は、「近年の少子化に加え、マンショ

ン住まいの増加や仏間のある世帯の減少などにより、売れる商品は小形化し販売単価も減少しています。一方で、室内で簡単に飾れ、場所をとらない雛飾りや旗、飾り鯉などの需要が大きく伸びているんですよ」と話します。

百年以上の歴史を持つ同社は、これまでの実績と信頼を基に、手作りの良さを生かしながら商品開発に力を入れています。

### ●社長のひとこと

子どもの成長への願いや、先祖への感謝など、日本人の心を形にしたものを作れることに職員一同感謝しています。今の時代に受け入れられるような新しい商品を開発しながらも、伝統の技術もしっかり伝承していけるよう、これからも頑張っていきたいと思います。

【問】市商工・ブランド振興課 商工・企業誘致推進係 ☎ 77・8762